

平成29年度公益財団法人山梨県青少年協会事業報告書

事業報告

事業概要

「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年の育成を図ること」を目的としており、この目的を達成するため、山梨県から指定管理者として指定を受けている5施設の管理運営を行うとともに、これらの施設等において、「青少年の自然体験、生活体験、奉仕体験などの体験活動を推進する事業」、「子どもや親子の自由な遊びやふれあいを促進する事業」、「青少年の文化、教養、スポーツ活動を促進する事業」、「青少年の科学に対する関心と理解を深める事業」等を積極的に展開し、青少年の健全育成及び施設の利用促進に努めた。

また、施設の使命や、利用者サービスの向上に充分配慮しつつ、燃料費、光熱水費等の経費節減に努めた。

事業実施状況

1 施設管理運営事業（公益目的事業）

(1) 県立青少年センター管理運営事業

「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年育成を図ること」を達成するために、利用者の皆様にとって快適な利用環境を常に保てるような施設管理・運営を行った。

又、幅広い年齢層の利用者からのニーズに応じた各種事業を実施した。特に親子で参加してコミュニケーションを深めることを目的とした子育て支援事業や、青少年の成長期における発育発達に必要とされる自然体験、運動体験などの身体を使った様々な活動事業を実施して、健全な青少年の育成を図った。

施設利用者数 209,129人（前年度 220,561人）

青少年センター主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
ゾンビパーク甲府 (地域活性化事業)	余暇活動の充実と地域の活性化を目的に、普段体験する事のできない大規模イベントを実施し、県内外の方々の交流の機会とした。	625
生きる力を育もう	命を守るために必要な4要素「保温・水・火・食」とともに、災害時に役立つ緊急テクニックを学ばせた。	37
大人も子どもも・・・みんな でドミノ大会!	「ドミノ」にチャレンジすることで、集中力や創造力を養うと共に、親子で共通の目標を持ち、課題解決のために協力して活動した。	49
水鉄砲フェスティバル ～つくって遊ぼう!～	参加者が長さ40cmの水鉄砲を作り、完成後は、グループに分かれて水を掛け合う「的当てゲーム」を行い参加者相互の交流を図った。	32
おやこで着衣泳～水 難事故から身を守る～	「水の抵抗」や「水中に於ける体力の消耗」、「救助と二次災害の防止」など、水難事故から身を守る幅広い知識を学ばせた。	20
子ども運動塾～めざせ 体育のヒーロー～	運動が苦手な子どもを中心に、運動の基礎的な動作を指導し、克服できた喜びと運動する楽しさを味わってもらった。	152
親子でリズムあそび～ 子育てを楽しく～	親と子が「ふれあい」をおしてリフレッシュするとともに、子育ての悩みを相談できる場を提供した。	12
青少年センターボラン ティア推進事業	ボランティア活動を推進するため、活動の場を提供するとともに、学習会をおして、ボランティアについてより理解を深めた。	11
グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフの愛好者に活動の場を提供するとともに、仲間づくりを図るとともに、健康づくりのための取り組みとした。	201
レクリエーションインスト ラクター養成講座	地域や職場において、社会活動や奉仕活動を行うにあたり、リーダーとして実践していくための知識や技術を身につけた。	472
平成29年度「センター 祭り」	地域に根差した施設を目指し、各種体験会、発表会、出店等による(文化)祭を実施するとともに、文化・情報の発信地としての機能をセンターが担い、参加者に楽しい一日を提供した。	2,330

事業名	主な内容	参加者数
焼きいも大会 (県民の日事業)	誰もが楽しめる「たき火」を囲み、焼き芋を焼きながら、参加者が交流を深めた。	350
居場所づくり	誰もが安心して交流し、様々な活動ができる「居場所スペース」を提供した。	3,205

青少年センター自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
甲運小学校区放課後 子供教室	小学生の放課後の居場所として、青少年センターと甲運小学校の一部を週1回程度開放し、宿題の見守りや各種体験活動を行なった。(青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	420
Consultation Bureau 事業	ニート、ひきこもりを含む若者無業者を中心に、様々な悩みを聞き、その悩みを解消するため、専門機関へ紹介する等の支援を行なった。	245
「学習スペース提供」 事業	青少年問題の中でも、近年とりわけ大きな問題となっている「子どもの貧困(家庭の貧困)」対策の一環として、自宅に学習環境の確保が困難な中学生・高校生に自主学習の場を提供した。	25
甲斐児わいわい紀行 2017	長期にわたる共同生活の中で、日常生活では体験できない諸々の活動をとおして、仲間と協力しながら主体性を育むとともに、信頼、協力、協調、規律などの意味を実感し、身につけた。(協会5施設合同事業)	40
備品貸し出しサービス	用具を持参しなかった利用者に有料でスポーツ用品を貸し出し、利用者の利便を図った。	
利用者支援サービス	利用者が、会議や研修に必要な書類をコピーできるように本館、リバーズ和戸館に利用者向けのコピー機を設置し、利用者の利便を図った。	
施設利用促進事業	利用者の確保と定着を図り、施設の利用促進を推進するために、幅広い層へ向けて広報活動を展開した。	
イベント誘致・青少年 健全活動事業	スポーツを通じた健全な青少年育成に寄与することを目的に、ピョンチンオリンピックの中継映像を体育室でパブリックビューイングし、参加者同志の交流を図るとともに全員で感動を分かち合った。	65

青少年センター自主事業実施状況(青少年育成山梨県民会議事業:県補助金)

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
「あいさつ・声かけ運動」市町村民会議等普及事業	県民・市町村民一人ひとりが取り組める「目に見える住民運動」として、利用者へのあいさつを徹底した。また、「子ども・若者育成支援強調月間」にあわせて、甲府駅で街頭キャンペーンを実施した。	
高校生のネット・シンポジウム	高校生同士が「インターネット利用の問題」や「安心・安全なネット社会」等をテーマに、意見を発表やグループ討論を実施した。	39
「家庭の日」「青少年を育む日」推進運動事業	県下の小学生を対象に、花の種を送り、「家庭の日」「青少年を育む日」の広報啓発活動とした。	
青少年関係NPO法人等ネットワーク事業	「青少年育成関係 NPO 法人等のネットワーク会議」を実施した。	18
子ども・若者支援フォーラム	「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」をメインテーマに、外部講師による講演会を行った。	50
管理運営費	ホームページによる情報提供や広報車の管理等を実施した。	

青少年センター自主事業実施状況(青少年育成山梨県民会議事業:協会自主財源)

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
少年の主張	物事を理論的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力を身につける機会として、少年の主張山梨県大会を実施し、山梨県代表者を全国大会へと推薦した。	170
白ポスト事業	JR 駅等に設置した白ポストで、青少年にとって有害なビデオや図書を回収した。また、劣化したポストについては改修を行った。	
青少年・青少年育成功 労者等表彰事業	青少年健全育成の一層の促進を図るため、善行青少年及び青少年健全育成功労者等を表彰した。	293

(2) 県立愛宕山こどもの国・少年自然の家管理運営事業

甲府駅から近く、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努めると共に、緑豊かな里山の自然の良さを感じながら健康寿命の延伸に寄与する快適な環境づくりに努めた。また、園内に一体となる少年自然の家では、家庭や学校生活を離れ、集団宿泊体験学習を中心に、多様な自然体験活動の支援とそのプログラム開発を行ない、併せて自然体験活動の普及を推進した。

こどもの国 施設利用者 210,181 人(前年度 197,512 人)

少年自然の家 施設利用者 18,722 人(前年度 19,774 人)

愛宕山こどもの国主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
あたごやま自然観察会	春、夏、秋をとおして、四季折々の自然を観察した。	133
子育て支援事業	親子レクや交流会を行った後、ピザ作りを実施したまた、子育てをテーマにクイズラリー、おもちゃ遊びなどを行ない、木に親しむ機会とした。	341
ファミリーサマーキャンプ	テントでの宿泊体験、野外炊事でのビッグバーガーづくり、うちわ作りなどを行ない、家族の絆を深めるとともに、参加者相互の交流を図った。	37
夏のアドベンチャー in あたごやま	テント設営や野外炊事、課題を解決しながら園内を巡るゲームをとおして、仲間と協力することの大切さを学ばせた。	29
愛宕山ボランティアバンク	こどもの国園内の清掃、整備を行ってもらい、こどもの国を支援してもらった。	408

愛宕山こどもの国自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
あたごやまノルディックウォーキング	ポールを使った歩き方を教わりながら、5月は園内、11月は園外を歩いた。	44
愛宕山こどもフェスティバル	ゴールデンウィークに工作や遊びなどの体験を通し家族の絆を深めた。	36,363
愛宕山秋祭り	クラフトや紙芝居口演、フェイスペイント、ヨーヨー釣りなどの縁日、巨大パエリア等、家族で楽しめる場を提供した。(科学館合同事業)	2,011
愛宕山で初日の出を見よう!	元旦にゲートを解放し、初日の出を家族や友人と楽しんでもらった。	500
あたごやまイベントフィールド	こいのぼり工作、落ち葉を拾って焼き芋、お正月飾り工作、昔遊び等季節に応じたイベントや、夏にはライオンの池に雪を降らせるなど、参加者の心に残るイベントを実施した。	1,731
里山再生事業	薪割機での薪割り体験や木の実を拾っての飾り炭づくりを実施した。炭づくりの間は電気やガスの便利さと異なる火の暖かさを感じてもらった。	18
ライオンの池活用事業	幼稚園の園児に絵を描いてもらうほか、池周辺の河原に水を循環させて、池周辺の整備を行った。	7,028

愛宕山少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
愛宕山親子フォトクラブ	カメラやスマートフォンの機能を生かした撮影方法やこどもの笑顔の引き出し方を学び、実際に園内で撮影を行った。	23
フレンドシップデイ	障害を持つこどもと健常者を対象に、野外炊事やゲーム、交流会を実施した。	47
防災キャンプ	家族で仮想避難所生活や、身近なものを使用したマスクや消火器作り、防災食体験などを行ない、非常時に役立つ知識を学ばせた。	21
キッズトライ	どんぐりをテーマに観察や工作・ゲームなどを行ない、自然への興味・関心を深めるとともに、仲間と協力し合う大切さを学んでもらった。(科学館合同事業)	22
ロボキッズキャンプ	初日にロボットを作るためのパーツとその組み合わせを学び、2日目にはオリジナルロボットを作り、ロボットコンテスト(ミッション)を実施した。(科学館合同事業)	30

事業名	主な内容	参加者数
あたごやまイングリッシュキャンプ	英語の講師による英語に親しむゲームやワークを行なった。また、英語のクイズを取り入れたオリエンテーリングを行なうなど、英語に触れる機会とした。	29
インターンシップ受入事業	実習をとおして、青少年の健全育成に対する理解を深めるとともに、教育事業や日常の研修支援などの業務を体験してもらった。	0

愛宕山少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
3世代ふれあいデイ	敬老の日に祖父母を含む家族で、郷土料理のほうとう作りを麵打ちから行なった。また、自然の家周辺をゲームを取り入れながら散策した。	21
愛宕山音楽広場	アコースティック楽器の演奏者による発表の場を提供し、演奏者や観覧者同士の交流を深めた。	42
自然の家ファミリーワーク	星空観察やナイトハイク、家族対抗オリエンテーリング等を行い、自然の家への理解を深めてもらった。また、影絵劇団による手影絵ショーも実施した。	114
あたごやまタイニーキャンプ	社会性を身につけることを目的として宿泊体験、動物をテーマにした運動遊び、すいとん作り等を実施した。	29
あたごやま親子陶芸教室	初心者親子や一般の方を対象に、基本的な陶芸の知識や技術を身につけながら、作る楽しさや喜びを感じてもらった。	166
利用者支援事業	自然の家を利用する団体や一般の方に活動プログラムの体験等についての支援を行った。	

3 県立八ヶ岳少年自然の家管理運営事業

八ヶ岳少年自然の家では、集団生活の中で自主的・自発的に行動する能力を身につけ、自律・協同・友愛・奉仕の精神を養うことを目的とした「少年団体の活動の場」として、利用者も指導者も安心して安全な活動ができる支援を業務目標の中心として施設運営を行った。

施設利用者 38,830 人 (前年度 39,701 人)

八ヶ岳少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
八ヶ岳利用者研修会	利用予定団体の引率者に活動プログラム作成や指導に必要な知識や技術を具体的に体験してもらう研修会を実施した。	94
八ヶ岳少年自然の家の思い出を描く作品展	本年度に利用した小学校 48 校から審査会で入賞 5 点、入選 40 点を決定し、表彰式を実施した。	1,581
清里高原で元気になろう	家族単位での利用者に施設を解放し、自分達で食材を持ち込んでの野外炊事など、思い思いの活動プログラムを体験して施設への理解を深めた。	325
自然の家ファミリーデー	自然の家での野外炊事や冒険ハイク等の活動プログラムを体験できる機会として、自然の家を利用してもらった。	376
やつがたけタイニーキャンプ	「動物になって遊ぼう」「動物ラリー」などの外遊びの運動を通して、共同生活や自然体験による仲間との強調性を育むきっかけづくりとした。	32
地域環境美化事業 ～花を植えよう！～	地域住民(朝日ヶ丘班)と連携し、玄関口の「牧場通り」に季節の花を植え地域との関係を深めると共に、周辺の環境美化に努めた。	60
八ヶ岳フレンドリーキャンプ	県内にある 3ヶ所の「こすもす教室」による合同キャンプを行った。野外炊事や交流会などを通して各教室間の交流を深めた。	31
サマーキャンプ	2泊3日のテントでの生活を通して、溪流釣り、ハイキングなど様々な体験活動を楽しみながら自然に対する興味・関心を深めた。	42
夏の清里ファミリーキャンプ	家族でのテント生活を楽しむ中で、焼き板表札づくりや炊事、ナイト追跡等の体験をし、楽しみながら、より親子の絆を深めた。	60

事業名	主な内容	参加者数
わく！ドキ！ウキ！バンビキャンプ①	幼児とその保護者が、別々のプログラムを実施した。幼児は「冒険心」「協調性」を培う活動を行い、自立心を養った。保護者には育児に関する講演や交流会等の活動を行った。	43
わく！ドキ！ウキ！バンビキャンプ②	幼児には雪や氷を使った活動で、冬の自然を感じてもらった。保護者はゆったりとした体験プログラムを過ごし、我が子の新たな面の発見と今後の子どもに関わりを考える機会とした。	45
地球っこキャンプ	外国人講師との交流やクリスマスに関わる活動を通して、国際社会への興味・関心を育成した。班活動を主にし、仲間の考え方や意見交換をすることで、他者への理解の能力や問題解決力を育んだ。	33
八ヶ岳星空への招待①	天文への興味・関心を高めるため、専門家によるプラネタリウムの仕組みについての講座や地学部の高校生による研究発表を実施した。星空観察や天文工作では、家族団らんの良い機会となった。	70
八ヶ岳星空への招待②	特別学習プログラムとして「モデルロケット打ち上げ体験」を実施し、制作から打ち上げまでを各家族で協力しながら体験した。実天観測は天候に恵まれ良い条件で実施することが出来た。	74
地域交流事業	自然の家と地域住民との交流・協力体制を築くことで、自然の家への理解と利用促進を図る目的で行った。	400
森を守っていただきます	子どもとその父親を対象の宿泊体験の中で、伐採作業の見学や専門家による「森に関する講義」を実施し、森の循環や役割を知った。また、父親が子どもと向き合う機会とした。	42
森と遊ぼう！ピッコロキャンプ	活動を通じて周りとの協力しながら秋の色彩を感じる「工作」や「クイズラリー」を楽しみながら、豊かな感性を育んだ。	33
利用者との意見交換会	本年度の利用者から代表として5名と意見交換会を開いた。今後の自然の家の運営における貴重な意見を聞くことのできる機会とした。	5
冬とあそぼう！	冬ならではの自然現象に対して、関心をもってもらうとともに、家族の絆を深めてもらう機会となるような外遊び、実験等のプログラムを行った。	59
冬将軍に負けるな！ウインターキャンプ	普段体験できない雪の中での活動を通して、自然の厳しさや素晴らしさを感じてもらった機会とした。また初めて会う友達との集団宿泊生活をとおして、自主性、協調性を養った。	15

八ヶ岳少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
星空への誘い	スタッフの専門的な解説を受けながら、清里の星空観察を満喫することができた。(科学館合同事業)	60
スキーに挑戦！	スキーを通して自然を体感し、心身のリフレッシュや家族の交流を図り、活動プログラムでは、スノードーム作り等を行い、参加者同士の交流を図った。	12
冬の清里の自然を満喫しよう	閑散期における利用率向上を図ることを目標に、開催ごとに異なるクラフトや活動プログラムを提供した。2月の開催日は積雪に恵まれ構内での「スノーシュー」や「ソリ遊び」を行った。	102
KIYOSATO ボランティア隊	主催事業の活動補助として、参加してもらえる学生や個人が参加した。また、児童対象のイベントでは、社会人ボランティアを中心に活躍してもらった。	40
利用者支援事業	施設利用者を対象に体験活動に要する資材を提供することで利用者サービスの向上を図る。	

4 県立科学館管理運営事業

科学館の設置目的である「青少年をはじめとする県民の科学に対する関心と理解を深め、豊かな感性と創造性を育む」ことを目指し、安全・快適な施設運営を行うとともに、展示や実験工作、天文分野において、主催・自主事業を実施した。

施設利用者 168,660人 (前年度 173,732人)

科学館主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
展示あそびサポート	展示ボランティアによるワークショップ「アサガオの植栽」「声コプター」他を開催した。	2,172
科学探究講座	大学や企業と連携し、最先端科学や最先端技術を紹介した。	1,217
実験工作サポート	実験工作ボランティアによるワークショップ「たんぽぽの種を調べよう」「冷えカイロをつくろう」他を開催した。	2,101
一般展示	常設展示室に設置の参加体験型展示(104 アイテム)の利用を通じて、科学原理や科学技術等の理解の促進を図った。	入館者 522
あそびの部屋利用	幼児期の情操教育の場として、遊具や玩具で自由に遊ぶことができる幼児コーナーの運営や幼児から参加できる「こどもクラフト」を実施した。又、ボランティアによるワークショップを行った。	8,482
マルチメディアコーナー	コンピューターに親しむことを目的に、親子で楽しめるソフトウェアの体験やレゴマインドストームNXTを使用したパソコンのプログラミングによるロボット操作の体験を行った。	3,137
サイエン旬	大学、研究施設、企業などの研究者の協力を得てアニマルと落暉イングリッシュ入門などを実施した。	27,986
新春お年玉特別イベント	新春特別イベントとして最新科学のVRを使った「恐竜戯画 超リアル恐竜を体感せよ！」と重心移動ですすむ電動スクーター「GO!GO!ロボスクーター」を実施し、親子や子ども達のコミュニケーションの場を提供した。	2,331
おはなしクラブ	あそびの部屋における子育て支援事業の一環として、山梨県立大学の学生サークルの協力を得て、パネルシアターや手遊びを行い、親子が楽しみながら交流できる場を提供した。	347
特別企画展	多くの子ども達に、科学への興味・関心を抱かせることを目的として、科学的かつ話題性のある企画展を開催した。	51,580
科学実験教室	おぼけスライム、葉脈標本、DNA ストラップなど21種類を実施した。学習利用ではスライムを中心に実施した。	10,427
おもしろ科学研究所	モデルロケットをとばそうなど、いろいろなテーマで、本格的な実験を実施した。	472
土曜科学クラブ	磁石の実験や、化学反応、手作りプラネタリウムなど様々なジャンルの実験工作を、大学教授、小中学校教諭、企業の方等を講師として行った。	414
サイエンスショー	数種類の新ネタを作成し実施したほか、夏、春の企画展に合わせたコラボショーも行った。ゴールデンウィークにあわせて、新しいメニューを盛りこんだゴールデンサイエンスショーを実施した。	37,093
スペシャルサイエンスショー	県外から講師を招き、「ひえひえヒヤヒヤ・ツアー2017 秋」を行った。	618
出張科学館	学習利用の一環として、保育所、幼稚園、小学校を対象に、サイエンスショー、ワークショップ、出張観望会実施した。	1,925
科学工作教室	ひみつスコープなど新メニューを含む22種類を実施した。学習対応では、スーパービー玉万華鏡などを実施した。	12,253
工作の達人養成講座	電子工作を中心とした特別工作シャボン玉連発マシン作りなどを実施した。	372
リフレッシュ理科	20 回の記念回であり、「サイエンスアドベンチャーpart II 暗号を解読せよ！」をテーマに、工作と謎解きを実施した。また、教員向けには、理科基礎実験講座も同時に開催した。	702
青少年のための科学の祭典	青少年のための科学の祭典 2017 を行った。今年は県民の日の 11 月 20 日を含む 3 日間実施した。	4,857
山梨エコラーニング	環境問題をキーワードに、ヒーローショー形式のサイエンスショーを職員共に実施した。	1,345
大人サイエンスクラブ	高校生以上の大人を対象として、実験工作講座を開催した。	31

事業名	主な内容	参加者数
スペースシアター投影	直径 20m のドームスクリーンに、プラネタリウムやドームシネマを投影した。	51,819
星を見る会	昼間に実施する「太陽観測」などを実施した。	5,584
出張観望会	県内の小学校及び公共施設を対象に出張観望会を行った。	282
星と音楽と語りのタペ	スペースシアター内で、講演会やクリスマスコンサートなどを実施した。	447
ライトダウンやまなし	企業や団体に対し実施日の8時～9時の消灯を呼びかけるとともに、展望テラスから、盆地と秋の星空ウォッチングやライトダウン関連イベントを実施した。	1,822
天文学習推進	ワークショップ「天体望遠鏡を作ろう」や観望会「皆既月食を見よう」を実施した。	84
ギャラリートーク	土星についての紹介とプラネタリウム番組製作裏話や海王星発見物語を実施した。	51
作品展示	科学的な原理や原則を取り入れた工作、動物・植物の生態、自然現象の記録写真、子ども達の科学の夢の絵画などの作品の募集・展示と表彰を行った。	22,456
学校教育連携	青少年団体指導者、小中学校の教員を対象とした、安全に教育プログラムを展開するための講習会開催や、SSH指定高校の活動支援、教員研修会、ワークショップ運営指導などを、実施した。	3,593
各種関係機関連携支援	関係団体、市町村、教育機関、民間企業、大学、NPO等との連携・支援を図る中、各種事業を行った。	18,930
サイエンスシップクルー	科学館ボランティアを対象に研修会などを行った。	50
利用促進	より多くの県民に科学館を利用していただくため、イベント案内(サイナビ)を発行するなど利用促進を図った。	入館者に同じ
館内ネットワーク(展示システム)	館内ネットワークの更新による、情報発信、情報管理及びコンピューター展示システムによるプログラムを提供した。	入館者に同じ

科学館自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	参加者数
カガクスキーのサイエンスキャラバン	公共イベント等でサイエンスショーや実験や工作、幼児を対象としたクラブ等、丸ごと科学館を楽しんでもらうキャラバンを実施した。	2,050
宇宙キャンプ	1泊2日の日程で開催。プラネタリウム、星座早見盤づくり、親子で考える月面計画などのワークショップを実施した。	10
夏休み自由研究相談所	科学館内に相談所を設置し、自由研究に関する相談に対して、詳細で分かりやすく効果的な指導を行った。	111

Ⅲ 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、自然科学、宇宙天文に関するオリジナル製品の販売、各種イベントでの模擬店や活動プログラムを支援する工作材料等を提供した。さらに、安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の利用率向上と収入確保を図った。

(単位 円)

事業名	主な内容	経常収益
利用者支援サービス	自動販売機による飲料水の販売、自然科学、宇宙天文に関する各種製品の販売を行った。	6,927,735
プラネタリウム番組配給事業	オリジナル番組を他館へ配給した。	925,012
外部団体提携事業	外部団体と提携し、専門インストラクタ指導による講座を実施し、県民サービスと利用の拡大を目指した。	165,931

理事会議決事項

回数	開催年月日	議決事項
第 1 回	平成29年 4月 1日	1 専務理事選定の件 2 重要な使用人の選任の件
第 2 回	平成29年 5月 24日	1 平成28年度事業報告の件 2 平成28年度収支決算の件 3 平成29年度定時評議員会開催の件
第 3 回	平成29年 6月 9日	1 平成29年度第2回評議員会開催の件
第 4 回	平成29年11月10日	1 理事長選定の件 2 専務理事選定の件 3 常務理事選定の件
第 5 回	平成30年 3月 20日	1 平成30年度事業計画の件 2 平成30年度収支予算の件 3 特定費用準備資金積立の件 4 平成29年度第3回評議員会開催の件

評議員会議決事項

回数	開催年月日	議決事項
定 時	平成29年 6月 9日	1 評議員の補充選任の件 2 平成28年度事業報告の件 3 平成28年度収支決算の件 4 理事の選任の件
第 2 回	平成29年11月 24日	1 評議員の補充選任の件 2 理事の補充選任の件
第 3 回	平成30年 3月 27日	1 平成30年度事業計画の件 2 平成30年度収支予算の件 3 特定費用準備資金積立の件 4 監事の補充選任の件 5 理事の補充選任の件